ま　え　が　き

「高校教育研究」第十一号を刊行するに当り，一言所感を申し述べておきたいと思う。

付属高校が実験学校として教育実習と高校教育全般に亘っての実践的研究に特別の使命を有することについてはここに改めて申し述べる迄もない事であるが，今日我国の高校教育全般に亘って屢々耳にすることは，今日の高校教育は進学と就職の為に著しく歪曲せられていると言う声である。

これに対しわれわれは常に深く反省し，又研究もし，各教科の学習のみならず，教科外の活動を通じ，更には又生徒の全生活を通じて人間形成に努力し，正しい高校教育の成果をあげるべく絶えざる努力をつづけているのである。本号では各教科の研究の外に，たまたま上述の問題にふれた二，三の発表がなされている。

即ちその一は本校の研究部よりの「生徒会活動の学業成績に及ぼす影響について」である。これは生徒会活動と学業とが両立するや否の問題に対する或る示唆を与えるものである。

その二は保健係りよりの「本校における保健管理上の問題――特に進学と体重減少について」である。これは今日の高校生は大学進学準備の為に，健康が著しく障碍せられ勝ちであると言われているが，之に対しての問題の一端を明示すると共に，之等を今後如何に指導するかについての端緒を示しているものである。

又教生実習のための「教材と人名について」は教育実習をうける学生に対し充分参考になるものと考える。

我校の生徒の殆どすべては大学進学希望者である。従って我校は進学準備の為に，他を犠牲にしているかに考えられ勝ちであるが，われわれはかかる弊害に陥らないように，常に深い考慮の下に，高校教育の本道をめざし微力をつづけているのであって，かかる念願の一端を本号においてもくみ取っていただけるならば誠に幸いである。

ここに「高校教育研究」第十一号を世におくるに当り，所感の一端を申し述べ，関係各位よりのあたたかい御教示をのぞむものである。

昭和三十五年一月二十四日

校　長　　村　上　賢　三